

県立博物館のイベント紹介 ～ 企画展「変な標本」～

文化財課

企画展「変な標本」について

博物館本館1階の企画展示室において、企画展「変な標本」を開催しています（令和3年2月21日まで）。

博物館では、これまでに約13万点を超える標本を収集してきました。この中には、様々な理由でこれまで展示する機会が少なかったもの、色や形が奇妙なものが含まれています。今回の企画展は、これらを「変な標本」と称し、この中から各分野の学芸主事が厳選した標本を一挙に公開しています。



【展示会場の様子】

展示内容

神々しい標本

企画展の会場に入ったら、「白いタヌキ」と「黄金のナマズ」が来場者を出迎えます。これらは白化個体（＝からだの色をつくる色素の一部がつかられず体表の色が変化した個体）で、いずれも鹿児島県内で捕獲された個体です。

きらきらと輝く標本

CD裏面のように一部がきらきらと輝く標本が展示されています。標本の輝く部分の色は、表面

の微細な構造によるもので、構造色と呼ばれます。構造色を持つものは自然界に広く存在していますが、今回は昆虫（チョウ、タマムシなど）、鳥（マガモ、カワセミ）、鉱物（ラブラドライト）、貝（ヤコウガイ）を展示しています。



【白いタヌキ】



【光るタマムシ】

学芸主事一押し”変わった”標本

順路を進むと、次に各分野の学芸主事が一押しする”変わった標本”を展示してあります。代表的なものを紹介すると、昆虫では昭和2年に鹿児島市上荒田で採取されたタガメ、植物では国指定天然記念物のチスジノリの大型標本、動物では平川動物公園から寄贈されたコアラの剥製、双頭のタマシの液浸標本、地質では異常巻きのアンモナイトなどがあります。

また、1個体から骨格標本と剥製をつくることを両取りとありますが、国指定天然記念物であるアマミノクロウサギの両取り標本なども展示してあります。



【アマミノクロウサギの両取り標本】

標本の多様な魅力を知ってほしい

展示標本には、新たな見方や作成に至るエピソードを加えて、魅力的に見えるよう様々な工夫を凝らしました。会場でこれらの標本を見て、学術資料としての価値はもちろんですが、多様な標本魅力についても感じてほしいと思います。